

兵庫県立浜坂高等学校 平成29年度 学校評価シート

1 学校教育目標

<夢を拓く教育活動の推進>
 —一人一人の夢の実現—
 (1)「勤勉・創造・禮儀」の校訓に基づき、命を尊び人権を大切に、共に生きるこころ豊かな人間を育成する。
 (2)豊かな人間性や社会性を身につけ、社会の変化に対応し、主体的・創造的に生きる力を育成する。
 (3)生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、生涯学習に向け自ら学ぶ意欲と習慣を身につけさせる。

2 重点目標

さまざまな体験を通して一人ひとりの生徒に夢や目標(志)を持たせ、授業はもちろんのこと学校生活全般に目的意識を持って主体的に取り組ませることによって、自己の未来(可能性)を切り拓く力を育てる。
 また、学校・家庭・地域が相互に連携し教育活動を展開する中で、社会の構成員としての自覚を持たせ、主体的に責任ある行動を取らせることを通し、こころ豊かにたくましく生きる力を育成する。

4 関係者評価及び意見

浜坂高校の自己評価及び改善策・成果の記述は
 ・適切である
 ・おおむね適切である
 ・あまり適切でない
 ・適切でない

3 自己評価

評価基準 S 目標を大きく上回る成果があった A 目標以上の成果があった B おおむね目標どおり
 C 目標としたほど成果があがらなかった D まったく目標にとどいていない

評価項目	実践目標	自己評価	改善策・成果	関係者評価	ご意見
学校運営	学校・家庭・地域が連携するための情報発信	A	・ホームページの更新に力を入れ、広報活動を充実させることができた。 ・新聞への掲載回数は昨年度を大きく上回った。(H30.3.20現在89回)	・適切である ●●●●● ・おおむね適切である ●●	・新温泉町公式HPのリンク集「その他」に「うまいもんふあくとり〜」のリンクを町企画課に依頼してPRに努めてはどうか。 ・HPの橘友会サイトの名簿を最新版に更新願います。 ・積極的な広報活動で地域に情報を発信している。鳥取環境大、企業、商工会とのコラボもよい。中学との連携をもう少し増やしてはどうか。 ・新聞紙上で活躍のほどがうかがえます ・年間通じて様々な交流や連絡会が望
	小中高大、企業連携強化	B	オープン・ハイスクールの実施方法のうち中学校との連絡調整に関する作業を見直し、正確性の向上と効率化を図り、中学校の要望に応えることができた。加えて、今後の長期的な部活動のあり方を検討するために、町内2中学校の現在の3年生と2年生を対象としたアンケートを実施するなど、緊密な中高連携を行った。		
総務部	防災・安全教育	B	・今年度は計画通り、マニュアルの作成および行内研修、津波の防災訓練を行った。	・適切である ●● ・おおむね適切である ●●● ・あまり適切でない ●	・次年度の講演予定で橘友会員で新温泉町田井ご出身の京都大学防災研究所水質資源環境研究センター所長「田中茂信博士」に身近な防災・減災などの講演をお願いしては如何でしょうか。 ・松林の清掃、魚道づくりなどの活動を通じて郷土愛を育む活動は大いに評価できる。
	P T Aと学校との協力体制の確立	B	・P T Aとの会議はどうしても夜になるので、校内理事の先生へお願いしている。		
	ふるさと貢献活動事業の充実	B	・今年は台風やインフルエンザなどの影響で行事が流れることが多かったが、部活動などと協力して可能な範囲で実施し、効果もあった。		
	計画的な研修会の実施	A	・総務部としては計画したものの実施にとどまっているが、各部署が積極的に研修会の報告をしてくださっている。		
校内美化	D	・引越しの作業の中で(教員は)かなりの校内美化につながる不用品の処分や大掃除ができたが、生徒の美化活動・美化意識の向上は出来なかった。			
教務部	個に応じた学習指導の充実と確かな学力の育成	B	それぞれの取組は成果を上げていると考えている。しかし、現在行っている指導形態の成果や問題点などを整理し、より効果的な授業形態などを模索していくことは必要である。	・適切である ● ・おおむね適切である ●●●●●	グローカルキャリア類型の取組は評価できる。プレゼンの機会もあり、生徒たちの学ぶ姿が目に見えてよい。
		B	学習実態調査を2回行うことで生徒の実態は把握できている。家庭学習の定着などの諸問題の解決など今後に生かしていきたい。		
		C	年間指導計画(シラバス)について必ず作っているし、必要なものである。いろんな活用の仕方が考えられるので、より意味を持たせる形にするための工夫を検討していきたい。		
	B	計画については年度当初に学年ごとに決めているが、もっと早い段階より検討してもらいたい。			
	教育課程の充実	B	基礎学力の向上については、学年や教科でいろいろな形で取り組んでいる。教育課程の中で解決できるものがあれば検討したい。		
図書室の利用	B	図書館通信は定期的に発行することができた。さらに生徒の読書意欲を高めるための取組を計画したいと考えている。			
生徒指導部	きめ細やかで心の通い合う生徒指導を行い、安心して安全な学校の実現を図る	A	アンケートや日常の生徒指導により問題となるいじめは早期発見し対処できていた。携帯電話の使用以外には問題行動もなく安定した高校生活を送っている。	・適切である ●●●●● ・おおむね適切である ●	・実現は無理と思いますが、韓国大統領府で行っているような「生徒請願および学校宛ての提案箱」を設けて早期の問題点等の把握が出来ないか。 ・地域での生徒の評判は比較的良く、問題ない。卒業式はたいへんよかった。
	生徒の日常的な危機意識の向上を図る	A	合格者集会での携帯電話の講演会、美方署による交通安全教育の実施に伴い、事故やトラブルは未然に防ぐことができた。		
	生徒会活動の活性化	B	学校祭や挨拶運動・募金活動等、熱心に取り組んでくれた。卒業式に向け校歌隊を編成し、練習に取り組んだ。		
進路指導部	主体的な進路選択能力の育成	D	進路説明会など各学年を中心に取り組んだ。生徒に正しい職業観・勤労観を更に育成できるようにしたい。	・おおむね適切である ●●●●● ・適切でない ●	・D評価が多い。今後の改革を期待します。
		B	就職に関する情報がより適切に伝えられるようにしたい。		
	進路指導体制の充実	D	3年間を見据えた具体的な進路計画が提案できるようにしたい。学年との連携がより十分にできるようにしたい。		

1 学校教育目標

<夢を拓く教育活動の推進>
 —一人一人の夢の実現—
 (1)「勤勉・創造・禮儀」の校訓に基づき、命を尊び人権を大切にし、共に生きるこころ豊かな人間を育成する。
 (2)豊かな人間性や社会性を身につけ、社会の変化に対応し、主体的・創造的に生きる力を育成する。
 (3)生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、生涯学習に向け自ら学ぶ意欲と習慣を身につけさせる。

2 重点目標

さまざまな体験を通して一人ひとりの生徒に夢や目標（志）を持たせ、授業はもちろんのこと学校生活全般に目的意識を持って主体的に取り組ませることによって、自己の未来（可能性）を切り拓く力を育てる。
 また、学校・家庭・地域が相互に連携し教育活動を展開する中で、社会の構成員としての自覚を持たせ、主体的に責任ある行動を取らせることを通し、こころ豊かにたくましく生きる力を育成する。

4 関係者評価及び意見

浜坂高校の自己評価及び改善策・成果の記述は

- ・適切である
- ・おおむね適切である
- ・あまり適切でない
- ・適切でない

3 自己評価

評価基準 S 目標を大きく上回る成果があった A 目標以上の成果があった B おおむね目標どおり
 C 目標としたほど成果があがらなかった D まったく目標にとどいていない

部	評価項目	実践目標	自己評価	改善策・成果	関係者評価	ご意見
部	進路指導時間増大	生徒の進路相談等に対応した個人面談と進路実現に向けた面接指導等を充実させる。	D	LHRや総合学習の時間で進路指導に利用可能な時間を更に確保できるよう計画を立てる。 たとえば、面談週間など学年・クラスで決めて、意図的に面談の機会を作る。		

兵庫県立浜坂高等学校 平成29年度 学校評価シート

1 学校教育目標

<夢を拓く教育活動の推進>
 一人一人の夢の実現
 (1)「勤勉・創造・禮儀」の校訓に基づき、命を尊び人権を大切に、共に生きるこころ豊かな人間を育成する。
 (2)豊かな人間性や社会性を身につけ、社会の変化に対応し、主体的・創造的に生きる力を育成する。
 (3)生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、生涯学習に向け自ら学ぶ意欲と習慣を身につけさせる。

2 重点目標

さまざまな体験を通して一人ひとりの生徒に夢や目標(志)を持たせ、授業はもちろんのこと学校生活全般に目的意識を持って主体的に取り組ませることによって、自己の未来(可能性)を切り拓く力を育てる。
 また、学校・家庭・地域が相互に連携し教育活動を展開する中で、社会の構成員としての自覚を持たせ、主体的に責任ある行動を取らせることを通し、こころ豊かにたくましく生きる力を育成する。

4 関係者評価及び意見

浜坂高校の自己評価及び改善策・成果の記述は
 ・適切である
 ・おおむね適切である
 ・あまり適切でない
 ・適切でない

3 自己評価

評価基準 S 目標を大きく上回る成果があった A 目標以上の成果があった B おおむね目標どおり
 C 目標としたほど成果があがらなかった D まったく目標にとどいていない

評価項目	実践目標	自己評価	改善策・成果	関係者評価	ご意見
保健部	健康に対する意識を高める	B	・保健だよりを引き続き発行した。 ・献血セミナーを実施することで、生徒の健康に対する意識が高まった。 ・献血者数はこの3年間で最高の人数であった。 ・パネル展示はできなかったが、次年度は実施したい。	・おおむね適切である ●●●●●● ・あまり適切でない ●	
	教育相談活動を充実させる	C	・今年度はカウンセラーを2名体制とした。 ・継続的にカウンセリングを受け安定した学校生活を送る生徒もいた。 ・職員研修の参加数が少なく、今年度は出来なかったが、健康診断の後に設定を検討している。 ・全体への周知は職員会議等で実施したい。 ・QUの活用とともに、気になる生徒の情報を共有できるように努める。 ・特別支援教育委員会を開いて、情報共有を図りたい。		
	学習環境の整備	B	・適宜、検査を実施し、環境整備に努めている。		
人権教育部	互いを思いやり尊重し、命や人権を大切にす心の涵養	B	・PTAとの連携事業で、講演会を開き、感想文を生徒に提出させた。しっかりと講演の内容を理解し、これから生徒自身が問題に直面した時、対処できる知識を身につけた。	・適切である ●● ・おおむね適切である ●●●●	
		A	・今年度、各学部・学年で2名ずつの参加して頂き、各種研修会への参加を通じて人権に対する理解を深め、識見を高めることができたと思います。次年度はもっと多数の職員が研修へ参加できるように調整したいと思います。		
学年	学習指導面	B	【1年】学習習慣の確立をを図るために、スケジュールブックの記入による各々の生活の振り返りを行ったが、充実した効果は見られなかった。また、コースごとに実情に応じた内容の模擬試験を定期的に行い学習意欲の高揚を図ったが、効果は低かった。	・適切である ● ・おおむね適切である ●●●●●● ・あまり適切でない ●	
		B	【2年】学習に対する意識の向上と学習の実際の指導を年間通して行った。まだまだ個人差は大きなものがあるが、自らの進路実現に向けて日々の学習に取り組んだり、資格や検定の取得に意欲的な生徒が増えつつある。今後は、それぞれの進路や適性に応じた指導、自学自習の習慣を学年全体に波及させることが課題である。		
		B	【3年】進路目標が定まり、目標達成のため多くの生徒が1,2年時より積極的に家庭学習に取り組めた。スケジュールブックを活用して日々の生活・学習の振り返りが出来た。大方の生徒は授業態度が良好であり、自学自習の学習姿勢を身に着けつつあるが、それを継続し学力の伸長に結び付けることが課題である。		
	進路指導面	B	【1年】次年度の選択科目の決定を機に、職業適性検査や進路ガイダンス、長期休業中課題としての職業調べ等を実施して進路意識の高揚を図った。今後は、更に具体的な職業像を確立するための方策が必要である。	・適切である ● ・おおむね適切である ●●●●●● ・あまり適切でない ●	・さらなる改革を期待します。 ・生徒アンケートで2年生の8割が11月に進路の方向を決めているのは立派だと思ふ。
		B	【2年】進路ガイダンスや地域での就業体験などにより自己の興味・適性について考え、進路選択に役立てることができた。また、接遇について学年全体で取り組んだ。進路指導部と連携し3年間の進路HRを含めた継続的・持続可能な進路指導計画を立て、学校全体で進路指導への理解を図ることが課題である。		
		B	【3年】進路指導部と連携して、生徒一人一人に対応した進路指導を行うことができた。定期的に学年と進路指導部の合同会議を開催し、生徒の情報交換を行い指導方法の共通理解を図った。		
	生活指導面	B	【1年】集団の中での自己の役割を意識させることには努めたが、緊張感の維持、狭小な集団生活の中の鬱屈感の払拭、スマホやゲームの正しい利用法の確立など、できなかったことが多い。	・適切である ● ・おおむね適切である ●●●●●●	・2年生で「学校が好きではない」と回答した生徒が多い点は気になります。
		B	【2年】就業体験、修学旅行、様々な学校行事の中での成功体験を通して自己に自信を持ち達成感を味わうことができた。またHR活動では集団帰属意識を一層高めることができた。落ち着いて生活しており規範意識も身に付いてきたが、まだまだ意識の低い生徒も見受けられる。今後も継続指導が必要である。		
		B	【3年】進路決定の学年であるため、ほとんどの生徒が自律的な学校生活を送るよう意識できた。体育祭や文化祭等の学校行事への取り組みもよく、学年集団の中で各自が与えられた役割を果たしていた。しかし、友人間や家庭内、そして学校生活そのものへ悩みを抱える生徒もいる。学年集団への帰属意識を高められるよう、保健室と連携しながら定期的な個人面談や教育相談を充実させたい。		